

庄原市遺族連合会

創設当時の情況

■創設にあたり

庄原市は昭和二十九年四月一日当時の、比婆郡庄原町、比婆郡高村、比婆郡本田村、比婆郡敷信村、比婆郡山内東村、比婆郡山内西村、比婆郡山内北村の旧七ヶ町村の合併により庄原市の誕生に伴い庄原市制施行と同時に福祉事務所も出来力強い行政発足に頼るべく旧七ヶ町村の七地区遺族会、会長会議を開催し戦没者遺族としての地位の確保と強力なる組織作りをすることを申合せ次後一年有余旧町村遺族会の意志統一を図り、昭和三十一年四月一日、庄原市遺族連合会として発足を致し、旧土地遺族会と旧地区名の支部に改め創立総会を行い、事務所は庄原市福祉事務所内に置き、初代会長に岸 武、氏生推戴。

■創設当時の役員

会 長 岸 武
副会長 藤原 重美、岡田 唯雄
婦人部長 速見 豊子

■庄原市遺族会会員調査表、(合併後昭和五十四年調べ数)

支部名	英霊柱数	遺族数	婦人数	青壮年部数
庄原支部	三〇	一五〇	一三〇	一〇五
高 支 部	一〇五	六	四〇	三
本田支部	一三〇	七	六	五
敷信支部	一五	六	六	五
山内東支部	一五	六	七	六
山内西支部	六	五	五	四
山内北支部	一〇六	五	五	五

■庄原市遺族会再編成の現況

会 長	一名	副会長	二名
婦人部長	一名	青壮年部長	一名
監 査	二名	会 計	一名
理 事	七名	評議員	三十一名

年中行事の概要

- 1 会費徴集方法(年額三千円)市より五万円、慰霊奉賛会より十万円
- 2 英霊顕彰について
慰霊祭 神式、仏式(一年交代)、主催者 庄原市慰霊奉賛会
靖国神社参拝 代表者四名毎年参拝
- 3 遺族会研修等の行事
他県護国神社参拝実施 遺族会理事評議員によりバス一台四十五名

程度参加実施。広島護国神社秋季大祭に団体参拝毎年バス二台百名

参拝の実施。庄原市遺族大会 婦人部、青壮年部、研修会の実施。

4 その他

忠魂碑 庄原市内三ヶ所

護国神社 庄原平和神社、山内平和神社

招魂社 高馬場御堂

平成五年度事業報告

平成五年

四月五日 山内護国神社慰霊祭参列（井澤副会長）

四月五日 広島護国神社慰霊祭委員会出席（今井会長）

四月七日 庄原市遺族役員会開催（老人福祉センター）

四月十五日 庄原平和神社慰霊祭参列（井澤副会長）

四月三十日 庄原市遺族会役員会開催（老人福祉センター）

六月二日 広島護国神社理事会出席（今井会長）

六月四日 西城町慰霊祭参列（今井会長）

六月五日 庄原市遺族会理事監事会（監査及収支決算）

六月八日 三次市慰霊祭参列（今井会長）

六月二十一日 庄原市慰霊祭準備委員会（老人福祉センター）

六月二十五日 広島県遺族会理事評議員会出席

（今井会長・山城戸婦人部長・井澤部長）

六月二十九日 庄原市理事、評議員会開催（老人福祉センター）

八月一日 高地区慰霊祭参列（今井会長）

八月六日 庄原地区原爆慰霊祭参列（井澤副会長）

八月十四、十六日 全国戦没者追悼式参列

（東京日本武道館 和手アサヨ）

八月二十五日

庄原市戦没者慰霊祭準備

（会長・地区会長・婦人部役員）

八月二十六日

庄原市戦没者慰霊祭（庄原市民会館）

九月二十二日

庄原市遺族会役員会（老人福祉センター）

九月三十日

広島県福祉保健課恩給係主催による未処遇その他遺族相談会（庄原市福祉事務所にて今井会長）

十月二十二日

広島護国神社秋季大祭団体参拝

（バス二台、六十名）

十一月十八日

広島県遺族援護相談員研修会出席

（広島県庁 今井会長）

十一月二十六日

庄原市遺族会役員会開催

（初穂料集計・カレンダー配布・老人福祉センター）

平成六年

一月二十六日

庄原市遺族会役員会開催

（基金委員会の件、老人福祉センター）

二月七日

北方領土の日啓発時に参加（山城戸婦人部長外役員）

二月二十日

県遺族会青壮年部大会参加（門永部長外四名）

三月六日

庄原市遺族会総会及び研修会開催

（庄原市田園文化センター五十八名）

三月二十五日

県遺族会理事評議員会出席

（広島市今井会長・山城戸婦人部長・井澤部長）

三月二十六日 庄原市遺族会決算役員会及び監査会

(山城戸婦人部長宅)

慰霊巡拝参加関係

平成五年六月二十二日～二十四日

第八回沖繩慰霊平和行進 (庄原市代表 早見吉人副部長)

平成五年十一月七日～十七日

ミャンマー・タイ地区慰霊友好親善訪問

(庄原市関係八名の代表を兼団長 井澤県部長)

各支部会員部員明細表

(参考)

(平成六年度分)

支部名	正会員数	準会員数	青壮年部員数
庄原支部	五名	二五名	五名
高支部	二名	八名	八名
敷信支部	一八名	九名	一七名
本田支部	一六名	七名	九名
山内西支部	一五名	六名	一三名
山内東支部	三〇名	八名	二五名
山内北支部	一〇名	一〇名	二名
合計	一五名	六六名	一七名

庄原市遺族会基金募金内訳

平成五年度において遺族会会員の皆様方のご理解とご協力を賜わり下記の通り多額の基金が造成出来ました。

大変遅くなりましたが紙面にてご報告致します。

地区名	金額	協力者件数
本田地区	六、〇〇〇	三〇
高地地区	八三、〇〇〇	六
北地区	八四、五〇〇	三
東地区	一、六四、〇〇〇	五
西地区	八三、一六〇	三
敷信地区	一、〇六、〇〇〇	六
庄原地区	二、七五、七〇一	一三
合計	八、八四、四三三	

H六・三・三十一までの
普通預金利子を含む

上記金額は、平成六年四月一日より庄原市遺族会基本財産管理規定にて、広島みどり信用金庫に五〇〇万円、JA庄原に三六〇万円定期預金とした、今後は庄原市遺族会基本財産管理委員会にて会員の皆様方の貴重な財産ですから将来英霊顕彰、遺族処遇改善等に有効に役立させて頂きますよう管理運営致します。尚、管理委員会の役員名は次の通りです。

庄原市遺族会基本財産管理委員

(自・平成六年四月一日～至・平成八年三月三十一日)

役職名	氏名	地区
管理委員長	今井 牛之	北
管理副委員長	松田 早登	西
管理副委員長	藤本 弘人	本
管理会計	門永 治一	庄

平成六年度庄原市遺族会理事並びに評議員名簿

平成六年四月一日現在

委員	竿崎 強	村上 雅志	北	婦人部長	花好トヨノ	中本町二丁目八二四
委員	速見 吉人	藏崎 国夫	東	青壯年部長	門永 治一	本町三三六
委員	新山 政男	大谷 敏枝	高	評議員	迫田 裕之	大久保町
委員	小山 政美	中田さとえ	敷信	評議員	片岡 勝郎	川手町三〇二
委員	水永 邦弘		西	評議員	郷原ハルコ	中本町一丁目一三〇
委員	宮脇 数登		庄原	評議員	松本キヨ子	西本町三丁目五二四
委員	須沢 宜之		本 田	評議員	岸本 昭子	東本町一丁目五九
書記	大谷 敏枝		高	評議員	宮脇カズエ	宮内町一九七一
監事	神田 茂生		本 町	評議員	松井とし子	高町
監事	中 康治		西	評議員	山本 喜一	高町五〇一四
監事	田中 弘之		東	評議員	藤岡 訓	川西町二五七
評議員				評議員	森永ハヤ子	本村町五二
評議員				評議員	加藤マサ子	春田町七〇五
評議員				評議員	藤岡ヤスノ	峰田町七九七
評議員				評議員	須沢ミヨコ	峰田町七九
評議員				評議員	丸田美智子	本村町五七一
評議員				評議員	広谷 茂	上原町乙三四〇
評議員				評議員	菅原 渚三	上原町三六五二
評議員				評議員	和手アサヨ	七塚町五八
評議員				評議員	中川 昭和	七塚町四四一
評議員				評議員	山城戸タツヨ	三日市町二七六七
評議員				評議員	西村 正克	三日市町二五一
評議員				評議員	近藤 筆三	尾引町五三
評議員				評議員	深屋 正夫	本郷町五四〇
会長代行	井澤 聖昭	西本町二丁目一五八		評議員		
副会長	門永 治一	本町三三六		評議員		
副会長	藤本 弘人	本村町六一		評議員		
副会長	速見 吉人	七塚町二〇六		評議員		
理事	竿崎 強	川北町三七六		評議員		
理事	新山 政男	高町二〇八一		評議員		
會計	水永 邦弘	水越町四四		評議員		
監事	松田 速登	本郷町二〇五		評議員		
監事	小山 政美	新庄町三二		評議員		

評	議	員	頻藤アヤコ	本郷町上
評	議	員	国好みや子	山ノ内町隠地
評	議	員	坂村 百枝	高茂町下三〇〇
評	議	員	村上 文子	川北町一六五七二
評	議	員	黒田ヤスコ	川北町二七四四
評	議	員	宝正 栄次	濁川町四〇二二
評	議	員	森田 都	実留町三九七
評	議	員	畑森千恵子	実留町七九
評	議	員	芋堀代美子	実留町一七六〇
評	議	員	中田ハツエ	一木町三
評	議	員	平田 熊恵	新庄町三三二

ミャンマー・タイ、慰霊友好親善訪問団

同行の想い出

広島県遺族会壮年部長 井澤聖昭

終戦五〇周年を迎えた平成七年、節目の年にあたり我々遺族会に取って種々記念式典、慰霊行事などが中央を初め各地において開催され初めて戦後五〇年の歩みに意義深いものを感じております。振返りますと昭和五十九年の夏、公式参拝実現の五〇時間断食祈願に参加したことを初め、毎年繰返されている陳情運動そして、公式参拝定着化の統一行動の実施等々、多くの先輩や部員の方々と行動を共にしたことは忘れることの出来ない遺族会活動であります。なかでも組織をあげて運動し遺児に

対する唯一の国家処遇として平成三年より実現した、慰霊友好親善事業に、日本遺族会幹事の立場で参加する機会を与えられました。去る平成五年十一月八日から十六日までの九日間、ミャンマー・タイ地域に総勢三十九名で私達遺児の共通の念願でありました父の眠る地を訪れることが出来ました。行程は、バンコクでミャンマー班とタイ班に別れての旅でしたが、私はミャンマーコースに団長として同行させて頂き、毎日が汗と涙の厳しい慰霊の旅であり、そのうえホテルを始め食事、バストイレ、貸切バスなどとても現在の日本での生活では想像出来ない程、大変粗末でしたが全員無事で、初期の目的とその使命を果すことが出来ました。偏に政府、日本遺族会並びに各県遺族会のご配慮であり更に、ミャンマー政府、日本大使館のご厚意に心から感謝致しました。全国から多くの参加希望者が有りましたが事業枠等の関係で僅かな人数での実施でした。過ぐる大戦でビルマ戦線にて十九万余柱のご英霊が眠る激戦地を訪問し、いかに悲惨な戦いであったか現地を巡拝し乍ら実感致しました。広大な戦野にて戦から弾なく飢えをいやす食もなく、唯ひたすら祖国の安泰と繁栄を念じつつ散華されたご英霊の無念を思い感無量でありました。戦争の悲惨さ、平和の尊さ、我が国の繁栄と豊かさを肌に通し心に強く刻んだ慰霊の旅でした。団員の殆んどが父の顔を覚えていない方々で、成田よりバンコクまでは、ジャンボ機でバンコクよりミャンマーのヤンゴン空港に小型機で向いましたが、ミャンマーの上空にさしかかると父の眠っておられる広大な地をみつめ、皆な涙された。現地で各々団員のお父様の戦歴を詳しく日本遺族会事務局員が事前に調べ、それに添って行動しました。各々の慰霊の場所での追悼のことは、初めてお父さんに語り、それに加えて丁度、その年の八月に細川首相の侵略発言が有



サガインセルではるかシツタン方面
を望み慰霊の場所（H 5.11.11）



チャンドー日本人墓地、ビルマ平和記念碑前での全ビルマ戦没者追悼式
（在ミャンマー大使館第一等書記官の
参列を頂く）。団長としての追悼のこ
とば。（H 5.11.15）

り、現地の慰霊祭で、お父さん本当にあなた方は侵略のためにこんな遠くビルマに戦いに来たのですかと尋ね、声を大にしてお父さんと呼んだ場面、ミャンマーに来て本当によかった、積年の想い悲願が叶えられたと心より喜んで頂いたこと、そして団員の方々は、平成五年、六年が丁度五十回忌を迎えられた節目の年でも有り大変意義深い巡拝でした。又、友好親善のため持参した衣類などを寺院で贈呈したこと、現地でお互に心をつにし兄弟姉妹として、毎日のハードスケジュールを予定通り実施出来たことは、私の永年の遺族会活動の中で生涯忘れることの出来ない貴重な体験をさせて頂きました。更には、今後ミャンマー国に対し友好親善を全国の仲間と果したい気持で一杯です。そして共に味わった感激を一人でも多くの同志に伝え我々の遺族会活動に反映させて頂き組織発展と共に慰霊友好親善事業の継続と拡充に努めることを約束し想い出の会も、毎年実施し再会しております。今、想い越し遺族会の組織は他の団体がない友情の絆を深めるすばらしい会だと、自分乍ら誇りに思い感謝しておる次第です。我々壮年部も組織の一体化の進む中で、今後更に、英霊顕彰を中心として、恒久平和維持のために若い世代に遺族会の継承し更なる発展をお互に祈念したいと思ひます。